北海道教育大学学術リポジトリ
Hokkaido University of Education Repository
国立大学法人 北海道教育大学
HOKKAIDO UNIVERSITY OF EDUCATION

教科書, 新聞, マンガにおける老人のビジュアルイメージ分析

メタデータ	言語: Japanese
	出版者:
	公開日: 2008-05-21
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: 宇田川, 拓雄, 大嶌, 英治, 荒谷, 真一
	メールアドレス:
	所属:
URL	https://doi.org/10.32150/00004942

北海道教育大学紀要（人文科学・社会科学編）第49巻　第2号　　平成11年2月
Journal of Hokkaido University of Education (Humanities and Social Sciences) Vol.49,No.2　　February, 1999

教科書，新聞，マンガにおける老人のビジュアルイメージ分析

宇田川拓雄，大嶌　英治，荒谷　真一
北海道教育大学函館校社会学研究室

Visual Images of the Old People in Text Books, News Papers and Manga Magazines

Takuo UTAGAWA, Eiji OHSHIMA, Shinichi ARAYA
Department of Sociology, Hakodate Campus
Hokkaido University of Education

1　はじめに

日本は少子高齢社会を迎え，老人の数の増加と人口に占める老人の比率の増加が進んでいる．平均寿命の伸びにつれ，少数の，単に死ぬのを待つだけの弱い，社会に依存するだけの存在であった老人は，有力な社会集団になりつつある．老後は長くなり，様々な義務から解放され人生を楽しむ時期という新しい意味をライフコースの中で獲得しようとしている．

老人とはどんな存在であるかという問題は，老人に対する社会の処遇や老人自身のアイデンティティーの問題と深くかかわる（森嶋由紀子，1995）．社会の高齢化にともない，老人イメージに関する研究はわが国でもいくつか行われている．中谷陽明（1991），中野いく子（1991）は児童の老人観，馬場純子他（1993）は中学生の老人観，冷水豊他（1994）は小学生と中学生の老人イメージ，保坂久美子他（1988）は大学生の老人イメージを分析している．老人イメージがポジティブかネガティブかが問題となっており，どちらとも言いがたいという結論になっている．さらに，中野，吉田，馬場，冷水らは老人との同居経験の有無がイメージに影響を与えることを見いだしているが，保坂らは同居経験は「それ自体はあまり重要な規定要因ではない」(31ページ）と考えている．

今や，老人のライフスタイルは若者や壮年のそれに劣らず多様である．それを単に「老人のイメージ」という視点だけで分析するのは無理がある．老人のイメージ調査では，具体的には調査対象者が個々に思い描く社会的カテゴリーないしステレオタイプとしての老人イメージが調査されている．実態としての老人が多様化しつつあるので，「おとしより」に関する固定化したイメージが現代の日本社会において成立しているかどうか，検討の余地があるのではないだろうか．

高齢社会では非ー高齢者が高齢者とどのように付き合うか，が問題になる．布引伴子（1993）は小学校「家庭科」，中学校「技術・家庭科」，高等学校「家庭一般」，「公民」，「現代社会」，「保健体育」の教科書と学習指導要領と指導書を分析し，高齢者や高齢社会がどのように取り上げられているかを明らかにした．布引は分量が少ない，弱い，介護される存在として老人が描かれている，一面的なイメージで記述されている，

などの特徴を指摘している．これは老人イメージの形成の過程に踏み込んだ研究である．

老人イメージは個人的経験を通して，あるいは社会的文化的に形成されすでに用意されているステレオタイプを学習することにより形成される．リップマンのいうとおり，「ほとんどあらゆる場合に，我々は先ず目で見て，それから定義するのではない．我々は先ず定義し，それから眼で見る．」（リップマン，1962，52ページ）のであって，老人イメージもこの指摘にあてはまるだろう．急速に高齢化の進む社会では，老人の実態が急速に変化しつつあり，社会的・文化的定義も変化し，その意味も曖昧にならざるをえない．従来の老人イメージは有効性を失い，また自分が現行の老人イメージに合っていないと感じる老人達は再定義を求める．そこで社会に現に提示されている老人イメージの分析が重要な意味持ってくると考えられる．

2　メディアと老人イメージ

老人イメージの形成において，メディアの果たす役割は大きい．本稿では教科書，新聞，およびマンガ雑誌というメディアにおける老人の扱いないし表現を分析し，それがどのようなイメージを提示しているかを明らかにしたい．対象としてはビジュアルイメージを分析する．

老人とはどのような人をいうのかの厳密な定義はない．法律的ないし学術的な定義としては65歳以上，職業においては定年は60歳などの基準が用いられることが多いが，現実には実年齢が高くても老人とは思えない人や，若くても老人にしか見えない人など様々な人がいる．一般にある人が老人かどうかは外見で判断されることが多いだろう．人は加齢とともに髪が薄くなり，肌にしわができ，筋肉がおち，姿勢が前かがみになり，外見的に老人らしくなる．視覚による判断が老人イメージの形成に重要なはたらきをする．

映像社会学においては，視覚による社会的現実の構成を重要な研究分野と考える（Grady, 1996）．前述の先行研究では老人イメージはポジティブかネガティブかが問題となっていた．メディアにおいて，老人のビジュアルイメージはポジティブな形で提示されているのか，それともネガティブな形で提示されているのだろうか．メディアにおける老人の扱いは現実を良く代表しているのだろうか，それとも布引の指摘するような一面的な扱いなのだろうか．これらのことを，ビジュアルイメージの分析で検討してみたい．

これまでの老人イメージの研究対象は，イメージの研究では個人が抱くイメージであり提示されているイメージの研究はなかった．新聞における高齢者関係記事の分析（関沢）と教科書の分析（布引）では内容や項目の分析で，ビジュアルイメージの分析ではない．ビジュアルデータとはここでは写真，絵，イラスト，マンガなどをさす．映像社会学は社会学研究に写真（スチル写真）を用いることから始まり，現在では動画（映画，ビデオ，コンピュータ上でのムービー）も扱う，社会調査法の一つとして位置づけれている．映像データの利用を行うが，それのみを扱うのではない．ビジュアルデータはそれに付随する説明の文が極めて重要な働きをする．ビジュアルデータはコンテンツを表象しようとするが，ビジュアル単独だけではそれが提示するリアリティーを十分に伝えることはできない．そこで，以下では，ビジュアルデータと説明（ストーリー，説明，キャプション，写真などのタイトル）を合わせて分析する．

分析の際の要点は，視覚的な老人らしさの表現，その人物が記載（掲載）されている理由，全登場人物における老人の割合と老人のビジュアルなイメージに着目してデータを集計した．人物がメディアに登場する理由として重要なものの一つに職業がある．老人は従来は年老いて仕事ができなくなった存在，退職者，年金生活者，介護の対象である．近代社会では職業が個人のアイデンティティーにきわめて大きな影響を及ぼす．バイヤーは次のように述べている．

「…健康な老人にあって，老人達を差別する最大の原因は職業活動である．職業活動は，多くの収入をもたらし，社会への参加を保証し，バランスのとれた生活を維持し，さらに肉体的・精神的なある種の活力を与えてくれる．とくに男子のばあい，働いていることは，われわれの社会における伝統的な役割と一致して

おり，働くことをやめることは，…かなりはっきりした権威の喪失を意味する」（バイヤー，1974，37ページ）

そこで，老人のイメージにおいて職業の果たす役割にも注目して，分析を行う．

3　教科書における老人イメージ

(1)　方法と対象

教科書は子どもの社会的現実の構成に大きな働きをする．教科書は社会の基本的な価値観を子どもに植え付け，社会の一人前のメンバーに育て上げる際の重要な手立てである．小学校の国語の教科書と図工の教科書における老人の扱いを調べた．

(2)　小学校の国語の教科書

平成９年度版の教育出版発行の１年生から６年生まで全12冊（各学年上，下巻）を用い，文法事項などを除く「作品」を調べた（表１）．

表１

学　　年	老人の登場する作品数	全　作　品　数	割　　合　％
1	2	22	9.1
2	3	22	13.6
3	3	21	14.3
4	1	21	4.8
5	1	23	4.3
6	2	22	9.1
合　　計	12	132	9.1

まず作品数で見ると，老人の登場する割合は10％に満たない．少ない場合は4.3％，多い場合は14.3％である．次に具体的な登場人物を調べてみる（表２）．ここで登場人物とは絵，写真，イラストなどビジュアルに表現されている人物である．男性，女性は見て判断が困難なものはなかった．子ども，大人，老人の区別は20歳未満，20歳以上65歳未満，65歳以上という基準を用いた．年齢が記載されているものは２例しかなかったので，外見から主観的に判断した．職業に関しては，職業についての説明があったり，見て職業が分かる場合についてのみカウントした．群衆写真（集合写真）や群衆の絵は除外した．

表２

学　年	男	女	子ども	大　人	老　人	職　業	合　計
1	158	130	190	69	29	15	288
2	86	63	95	34	20	6	149
3	54	60	88	22	4	7	114
4	80	41	60	57	4	5	121
5	34	24	28	23	7	8	58
6	20	23	24	11	8	1	43
合　計	432	341	485	216	72	42	773
	55.9％	44.1％	62.7％	27.9％	9.3％	5.4％	100％

性別で見ると，男性が55.9%，女性が44.1%でほぼ半々で男女平等に出ている．老人は全体の9.3%で，現在の日本における高齢者(65歳以上）の割合（14%以上）に比べると少ない．老人における男女の比率については３：１程度で男性が多かった．職業がわかる例はほとんどが「大人」であった．

高齢者のイメージの例は次のようである．１）戦争中に息子が戦地に赴いて，一人寂しく暮らしている老女（「りんごの花」３年生上）の例では小柄で白髪，顔にしわ，弱々しい感じである．主人公の孫の食事の支度をしているので，専業主婦（無職）であろう(図－１)．２)「大きなカブ」(１年生上）ではおじいさんとおばあさんが出てくる．孫，犬，猫，ネズミの助けまでかりなければカブを引き抜くことができない非力な存在である．外見は一見して老人である．二人とも白髪，おじいさんは口ひげがあり，おばあさんはしわが多い．服装は古いみすぼらしい感じである．職業は(引退した）農民であろう．３)「大造じいさんとがん」では猟師である．外見は白髪，しわ，髭，痩せていて，小柄で，鉄砲を持っている(図－２)．これはイメージとしてはポジティブな例である．つまり，狩のために獲物をとことん追い詰めるというアクティブな活動を行う．

図－１

図－２

全体としていえることは，老人は優しい，弱い，思い出を語る存在，過去の存在，受難者，孫を世話するといった役柄が割り当てられている．狩人のように専門的技能を持った人物は老人の姿をしてはいても，このようなステレオタイプ的な性格では表現されていない．ただし大造じいさんも過去の人である．

(3) 図工の教科書

小学校の図画工作の教科書（日本文教出版株式会社，1年生から6年生まで）で老人のビジュアルなイメージがどのくらい提示されているか調べた．

表3

学　年	男	女	子ども	大　人	老　人	職　業	合　計
1	111	103	199	15	0	4	214
2	138	119	242	15	0	0	257
3	91	75	154	12	0	0	166
4	88	93	170	11	0	0	181
5	119	61	155	24	1	0	180
6	49	40	52	37	0	4	89
合　計	596	491	972	114	1	8	1,087
	54.8%	45.2%	89.4%	10.5%	0.1%	0.7%	100%

人物イメージを表現した絵，写真は1087個あった（彫刻などの写真を含む）．男女の比率は男性が54.8%，女性が45.2%で国語の教科書の比率に近い．人物では子どものイメージが圧倒的に多い（89.4%）．老人は1件（0.1%）しかない（子どもが書いた絵「テレビを見るおばあちゃん」）．しわ，背が小さく，眼鏡，地味な服装で，おとなしい感じがする．

教科書によっては老人の出現比率が多いものもある．例えば日本造形教育研究会・開隆堂出版株式会社の図画工作は家，工芸職人，あるいは美術にかかわる思い出を語る登山家・学者・小説家などの写真を多く用いている．その中には老人が多く含まれている．たとえば青年ピカソではなく，晩年のピカソの写真が出ている．この教科書では老人は才能，技能を持った人物として取り上げられている．

4　新聞における老人

1988年6月7日から6月13日までの一週間分の朝日新聞（統合版）について，人物写真をカウントした．広告写真と集合写真は除外した．男性，女性の区別のつかないものはなかった．子ども，大人，老人の判断は教科書の場合と同じく，説明のないものは主観的に判断した．

表4

月日（曜日）	男　性	女　性	子ども	大　人	老　人	職　業	合　計
6月7日(火)	19	11	3	20	10	15	27
6月8日(水)	25	9	3	26	3	18	30
6月9日(木)	29	10	2	30	4	18	35
6月10日(金)	25	14	4	32	3	18	38
6月11日(土)	26	12	1	30	6	22	36
6月12日(日)	40	17	3	44	6	27	52
6月13日(月)	19	7	0	23	3	21	24
合　計	183	80	16	205	35	139	242
	75.6%	33.1%	6.6%	84.7%	14.5%	57.4%	100%

男女の比率では男性が75.6%，女性が33.1%でよく言われているように，男性優位である．老人は女性よりも比率が少なく14.5%で女性の半分以下である．こどもの数は大変少ない．写真が出る人物は会社社長，政治家，叙勲者など，権力，地位，名誉などを持った人たちである．つまりポジティブな属性が理由で新聞に載っている．他方，教科書に出てくるような，ふつうの老人，弱い老人，ネガティブな特徴を持った老人が新聞に出ることはめったにない．社会的に尊敬される地位についていたり，価値のある業績を行った人が新聞に写真が出る．また，全体では約半数が職業との関係で新聞に出ている．死亡記事もその人物の生前の社会的地位や職業が理由で出る．職業や地位と直接関係のない場合としては趣味が理由で新聞記事になるケースがある．新聞に載る老人は老人であるという理由で載るのではなく，職業や業績が理由で載るケースがほとんどである．

5　マンガにおける老人

(1)　方法と対象雑誌

1997年10月第4週に購入可能な子供向けの漫画雑誌を購入し，老人が出ている作品数とページ数を調べた．一般に広く読まれている雑誌を選んだ．

表5

番号	雑　誌　名	号	出版社	老人が出ている作品数	全作品数	老人が出ているページ数	全ページ数
1	月刊少年ジャンプ	11月号	集英社	2	14	27	632
2	月刊少年マガジン	11月号	講談社	4	15	35	684
3	月刊少年チャンピオン	11月号	秋田書店	3	20	12	610
4	月刊少年エース	11月号	角川書店	3	19	22	592
5	なかよし	11月号	講談社	2	16	19	450
6	りぼん	11月号	集英社	2	13	5	466
7	ちゃお	11月号	小学館	2	15	9	476
8	週刊少年サンデー	10月22日号	小学館	4	24	25	450
9	週刊少年ジャンプ	10月20日号	集英社	1	18	9	426
10	週刊少年マガジン	10月22日号	講談社	2	20	13	456
11	週刊少年チャンピオン	10月23日号	秋田書店	2	23	9	426
12	週刊ヤングサンデー	10月30日号	小学館	2	20	10	334
13	週刊ヤングジャンプ	10月30日号	集英社	1	18	6	362
14	週刊ヤングマガジン	10月27日号	講談社	1	22	3	398
合計				31	257	204	6,762
割合				12.1%	100%	3.0%	100%

広告，写真特集，読者欄などは除外し，作品のみを調べた．14冊で作品総数は257本でそのうち老人が出ている作品数は31本（12.1%）であった．ページ数では総ページ数6762ページのうち老人が出ているのは204ページ（3.0%）であった．今回用いたデータ中30作品では各作品に一人しか老人がでておらず，1作品（「じじばばファイト」）のみ複数の老人が出てくる．次の表6は31作品にでてくる老人をまとめたものである．

表6　　（注）主人公との関係、主人公＝◎／重要人物＝○／わき役＝△

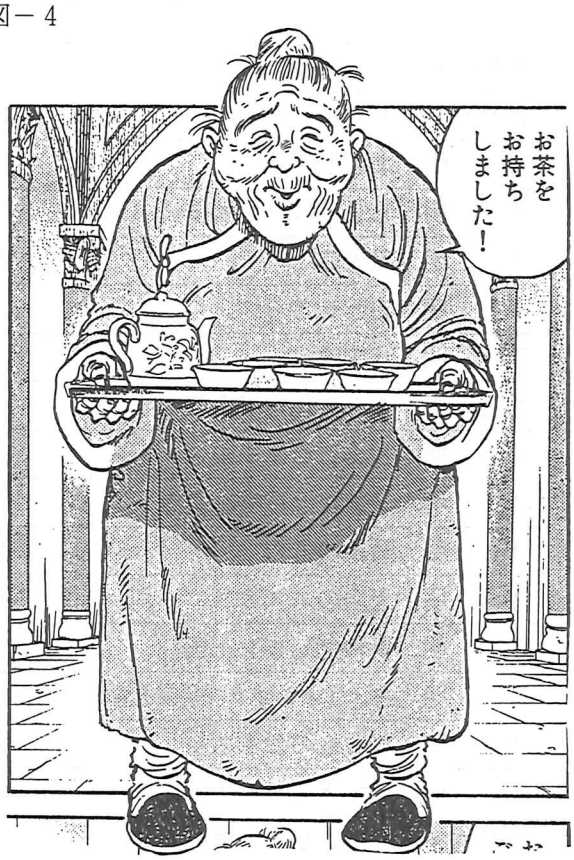
人物名	作　品　名	雑誌名	主人公と関係(注)	役　職	善○／悪×	強者○／弱者△
源氏源太郎	GODA銃	1	○	高校の校長先生	○	○
武村真吾	ダブルハート	1	△	アパートの大家	○	△
不　明	なんと孫六	2	○	野球のコミショナー	○	△
不　明	じじばばファイト！	2	◎	村人	○	△
不　明	風光る	2	○	高校の野球部の監督	×	△
不　明	えとせとら	2	△	ギャンブラー	×	△
不　明	ザ桜吹雪	3	○	ボクシングのトーレナー	○	○
早乙花男	ボクら超常倶楽部です	3	△	中学の校長先生	○	△
不　明	どんどこオールスターズ	3	△	僧侶	○	△
不　明	妖艶抜忍召喚師魔姫	4	○	僧侶	×	△
不　明	最後の告白	4	○	神様	○	○
不　明	天空のエスカフローネ	4	○	不明	×	○
不　明	夢のクレヨン王国	5	○	不明	○	△
不　明	キュリオショップせぴあ堂	5	○	骨董屋	○	△
不　明	こどものおもちゃ	6	△	カウンセラー	○	△
不　明	赤ずきんチャチャ	6	△	不明	○	△
海技秀一	ハートビートにのせて	7	○	音楽教師	○	△
不　明	エンジェルリップ	7	△	不明	○	△
不　明	LOVE	8	○	テニスのコーチ	○	△
不　明	犬夜叉	8	○	不明	○	△
阿　笠	名探偵コナン	8	○	博士	○	○
不　明	烈火の炎	8	○	格闘家	○	○
不　明	BOY	9	○	神父	○	△
不　明	はじめの一歩	10	○	ボクシングのトレーナー	○	○
不　明	将太の寿司	10	△	審判員	○	○
不　明	グラップラー刃牙	11	△	格闘家	×	○
不　明	京四郎	11	○	高校の野球部の監督	○	△
加　治	花マル伝	12	○	中学の柔道部の顧問	○	○
小　松	太郎	12	○	社長	○	○
水　森	ハードボイルドパパ	13	○	名家の当主	×	○
不　明	青龍ーブルードラゴンー	14	△	召使	○	○

31作品のうち老人が主人公であるものは１本のみ（「じじばばファイト」），主人公との関係で重要な人物として出ているのは20本，わき役として出ているのは10本である．外見について見ると，どの人物も明らかに老人と判定できる．「GODA銃」の源氏源太郎は頭がはげていて口ひげやあごひげは白く，眼鏡，額にはしわ，和服を着ている（図－３）．「ダブルハード」の武村真吾は髪は白く，まゆ毛は太く黒い．「ブルードラゴン」で出てくる老女（名前不明）はぼろぼろの汚らしい服装，髪はばらばら，顔にはしわ，老人性のしみ

が浮いて見える（図－４）．

図－３

図－４



前述のイメージ調査では老人イメージがネガティブかポジティブかという分析を行っていたが，マンガの場合，老人のイメージは単にポジティブ，ネガティブとは分類できない．ここでは善人か悪人か，強いか弱いかという視点も導入して分類して見た．プラス（ポジティブ）のイメージとして提示されるのは老人が専門職（医者，武道家，野球の監督，校長先生，僧侶，神父，博士）の場合である．マイナスのイメージの場合は，召使，ギャンブラー，ただの村人，通行人，などで，これらの人々には従来の老人の弱いイメージしか与えられていない．強いイメージとしては，「名探偵コナン」に出てくる阿笠は知恵者であり，コナンを助ける，「グラップラー刃牙」に出てくる老人格闘家（名前不明）は強く主人公を脅かす（悪人）である(図－５)．弱いイメージを持った人物の例としては「青龍－ブルードラゴン－」の召使や「犬夜叉」の老人のように仲間であっても役にたたない人物が出てくる．老人の性別では男性が29人，女性が３人で男性が多い．女性は全て弱いイメージに描かれている．

図－５

6 考　察

マンガは教科書や新聞よりもより多様で多彩な老人イメージを伝えている．教科書の場合，男女の比率は半々だが，老人はほとんどがネガティブな，あるいは過去の存在として描かれている．新聞の場合は，写真が載る人物は社会的に高い地位や優れた業績を上げた人物でポジティブなイメージを持っている．マンガに描かれている老人はネガティブな存在（弱く，のろく，醜く，介護され，哀れまれる，過去に生きる）の場合もあれば，子供から尊敬され，頼られる存在としても登場する場合もある．子供たちのメンターとなりうる老人は専門職，達人であり，人生に充実を感じつつ生きているケースがほとんどである．マンガは，茨木正治（1988，81ページ）も言うように，強さ，醜さ，鋭さ，鈍さなどといった特徴が極端に強調される場合が多いが，ポジティブーネガティブに関しては比較的バランスのとれた老人イメージを伝えている．（例外は老人夫婦が主人公である「じじばばファイト」である．この作品はコミックもので，主人公は容姿は老人だが，エネルギッシュで粗雑で，様々な問題を引き起こす，とても老人とは思えない性格である．しかし多分にアナクロ的で，他の若い登場人物達と明らかに感覚が異なっており，強い，早い，鋭いといったイメージを持ちながらなおも老人であるという設定になっている．）

老人のイメージ調査で用いられたようなスケールで，単に老人イメージをポジティブ，ネガティブに２分してしまうと矛盾を来す場合があるだろう．なぜならば，老人について弱いー強い，悪いー良い，みにくいー美しい，鈍いー鋭いはそれぞれ第一の形容詞同士が同一次元にあるとは限らないからだ．マンガでは強くて悪い，鈍くて良いという人物も登場する．それが，より現実に近いと考えられる．現実には「老人というのは経済的にみても，家族の状況をみても，価値観をみても，きわめて多様な存在である．」（直井道子，1981，281ページ）．

人は加齢とともにビジュアルな外見が老人になることは避けられない．しかし，専門的技能や職業を持つことにより，老人というラベルで評価されることをまぬがれることができる．マンガでは老人が老人というラベル以外で評価され，老人以外の役割を遂行し，善玉として社会の尊敬を受けて，あるいは悪役として役割を果たしているケースを描写している．老人は，体の様々な機能が低下してゆくものであり，その老人のイメージは今後もネガティブなものにとどまらざるを得ないだろう．しかし，今後老人の実態がますます多様化し，様々なライフコースを歩むようになると，老人というラベルが実質的な意味を持たなくなるかもしれない．

参考文献

茨木正治，政治漫画の機能―研究動向を主として―，「年報社会学論集」　創刊号，79-90ページ，1988年
副田義也，「講座老年社会学１－老年世代論」，垣内出版，1981年
副田あけみ，第５章，「講座老年社会学１－老年世代論」，垣内出版，1981年
関沢英彦，「現代社会学13」，岩波書店，1997年
直井道子，第７章，「講座老年社会学１－老年世代論」，垣内出版，1981年
中谷陽明，児童の老人観－老人観スケールによる測定と要因分析－，「社会老年学」，34，13-22ページ，1991年
中野いく子，小学生と中学生の老人イメージーＳＤ法による測定と比較－，「社会老年学」，39，11-22ページ，1994年
竹中星郎編著，「老年期の心理と病理」，放送大学教育振興会，1998年
副田義也，「老年世代論」，垣内出版，1981年
中野いく子，児童の老人イメージーＳＤ法による測定と要因分析－，「社会老年学」，No.34，23-35ページ，1991年
綿引伴子，家庭科の教科書，指導書，授業実践記録に見られる高齢者についての教育の現状，「お茶の水女子大学人文科学紀要」，第46巻，253-267ページ，1993年
パール・パイヤー，藤井良治訳，「老年の社会学」，白水社，1974年

馬場純子・中野いく子・冷水豊・中谷陽明，中学生の老人観ー老人観スケールによる測定ー，「社会老年学」，38，3-12ページ，1993年
冷水豊・中谷陽明・馬場純子，小学生と中学生の老人イメージーＳＤ法による測定と比較ー，「社会老年学」，39，11-22ページ，1994年
保坂久美子・袖井孝子，大学生の老人イメージ，「社会老年学」，No.27，22-33ページ，1987年
森嶋由紀子，つくられる「老い」と社会的相互作用，「第68会日本社会学会大会報告要旨」，日本社会学会，334-335ページ，1995年
吉田純子・冷水豊，児童と老人の交流，「社会老年学」，34，3-12ページ，1991年
リップマン，「世論」，（世界大思想全集25），河出書房新社，1962年
John Grady, The Scope of Visual Sociology, *Visual Sociology*, 11(2),pp. 10-24, 1996

教科書

教育出版，こくご上，下，1～3年生，国語上，下，4～6年生，平成9年度版
学校図書，国語，5年，平成9年度版
日本文教出版株式会社，図画工作，1～6年，平成8年度版
日本造形教育研究会・開隆堂出版株式会社，図画工作，1～6年生，平成9年度版

（宇田川拓雄；北海道教育大学教授，大嶌英治；北海道教育大学大学院生，荒谷真一；北海道教育大学平成9年度卒業生）